

知って得する 温泉の話



寒い冬こそ温泉につかっただけのんびりしたいものです。しかしコロナウイルスのせいで何処にも出掛けられないという方も多いのではないのでしょうか。私もコロナウイルスが収束したら温泉に行くぞと思いい温泉のことを調べてみました。

温泉と呼ぶには、採取される時の温度が二五度以上、または規定の成分が定量以上含まれていることと温泉法で定義されています。日本には三〇三八の温泉地と二万七四二一の源泉があるとされています。温泉地の数を都道府県別にみると、一位が北海道次いで長野県・新潟県・福島県と東日本が上位を独占しています。一方源泉数では大分県が断トツの一位で、鹿児島県・静岡県・北海道・熊本県と西日本が優勢です。温泉はマグマ溜りの熱で地下水が温められた「火山性温泉」地熱や高温岩帯で温められた「非火山性温泉（深層地下水型）」、地中に閉じ込められた化石海水を利用した「非火山性温泉（化石海水型）」に大別されます。

登別温泉の地獄谷や箱根温泉の大涌谷、別府温泉の地獄・草津温泉の湯畑な

ど、いかにも温泉らしい噴き出し口は火山性温泉にみられるものです。

次に温泉には大きく分けて九つの泉質に分けられ、それぞれ特徴や効能がことなります。

・単純温泉

最も多い泉質で、無色透明、無味無臭、

お湯が柔らかい。主な効能は疲労回復、神経痛、筋肉痛、肩こりなど美肌の湯ともいわれる。三ヶ日温泉や伊豆方面の温泉地に多い。

・二酸化炭素泉

炭酸ガス成分が溶けて気泡が出るのが特徴、低温だが保温性が高い。高血圧、動脈硬化、切り傷、やけどなどに。有馬温泉や別府温泉郷など。

・炭酸水素塩泉

「美人の湯」とも言われ、ツルツルの感触で肌をなめらかに。切り傷、やけどと美肌効果がある。伊豆の河津温泉郷の七滝温泉など。

・塩化物泉

海水に似た食塩を含み、舐めるとしよっぱい。「熱の湯」とも呼ばれ保温効果が高く、冷え性、切り傷、やけど、関節痛などに。近くでは館山寺温泉、熱海

温泉や伊東温泉など。

・硫酸塩泉

日本では数少ない温泉になり、無色透明に苦味があり、動脈硬化、切り傷、やけどなどに効く。堂ヶ島温泉や群馬県の四万温泉。

・含鉄泉

鉄が酸化しているため茶褐色で神経痛、リウマチに。三島市の竹倉温泉と沼津市に月の湯温泉がある。

・硫黄泉

硫化水素ガスの臭いと湯ノ花が特徴。神経痛、リウマチ、婦人病に効き、代表的なのは一度は入りたい天下の名湯草津温泉。

・酸性泉

酸性が強く殺菌効果が高い、神経痛、胃腸病、皮膚病に効く。蔵王温泉や秋田県の新玉川温泉など。

・ラジウム泉

ラドン温泉ともいい、入浴の適応症に通風がある唯一の泉質で三重県の湯の山温泉など。

そして注意として食事の直前、直後や飲酒後の入浴は避け、特に酩酊状態での入浴はやめましょう。